

巻頭言 「キャンプに参加して」～美味しいパン焼きを一緒にしませんか～



北海道キャンプ協会 理事
一般社団法人 あそびの家
こども発達支援あそびの家
施設長 片岡裕之

私が「キャンプ」に触れたのは小学4年の地域子ども会夏休み校庭キャンプが始まりです。キャンプと言えば学校キャンプの時代でした。（「子ども会とかけて何と解く⇒幽霊と解く⇒その心は⇒夏になると出てくる」と言われていた時代でした。）その後、地域スポーツ少年団に関わり町内会の子ども会活動等でリーダーとしてキャンプに触れていく事となりました。高校生になり、苫小牧市つみきの会に入会、その後、北海道キャンプ協会を立ち上げた佐々木順先生に出会う事となり、本格的に子ども会活動とキャンプ活動を始めていく事になります。

キャンプと言えば忘れられない体験が高校1年生の時にあります。それは中学校時代の友人7人と支笏湖モーラップでの出来事です。その当時は設営に3～4人掛かりで20分程度時間の掛かる三角テントでした。隣にふらっと車が来て、外国人家族がテントを設営し始めました。そのテントはポンとボタンを押すと設営できてしまう物で、ものの1分程度の事で、あっけにとられてしまった事を鮮明に覚えています。夜になり夕食を済ませキャンプファイヤーをしている所に、隣でキャンプをしていた外国人家族がギター片手に参加してきて炎を囲みながら一緒に歌を唄い続け、とても楽しいひと時をすごした事を今でも忘れる事ができません。

さて、私は21歳の時に愛知県主催のキャンプ指導者研修に参加し、キャンプ協会中級指導者の資格を取得し、名古屋市天白区で子ども会活動を主に支援し、毎週デイキャンプでファイヤーを囲んでトーチサービスを行っていました。当時の日本キャンプ協会の事務局にも出入りさせてもらい、とても暖かくほっとできる事務局だったと思います。

大学を卒業後北海道に戻り、苫小牧市青少年課主催のキャンプにディレクターとして参加しながら子ども会活動を中心にキャンプ活動を行っていました。苫小牧市青少年キャンプ場（苫小牧アルテン内）の開設にも関わり、現在はその中に設置してあるパン焼き釜戸の管理をボランティアで行っております。パン・オ・ノア（くるみパン）がとっても美味しく、焼き方で様々な楽しみ方や味わいがあります。ピザにしたり、棒まきパンにしたり、ダッチオーブンで焼いたり、野外料理をしながらキャンプを楽しめたらと思っております。

毎年5月の連休に窯開けをして10月下旬に冬囲いをしますので、是非とも一緒に楽しい時間を過ごせればと考えております。ぜひ一度苫小牧市青少年キャンプ場にお越し下さい。

キャンプ・インストラクター講習会

日時:2020年10月16日(金)～18日(日)@国立大雪青少年交流の家

青少年教育スキルアップセミナーとして標記の講習会(兼NEALリーダー養成事業)を実施しました。コロナ禍という状況ではありましたが、12名の参加者を迎え実施することができました。感染予防を講じた内容でしたが、無事に講習会を終えることができたのでご報告させていただきます。

～DAY1～

まずは参加者同士でアイスブレイクを体験してもらいました。活動に制限はありましたが、その効果と理論を学んでもらうことができました。その後は座学を中心に学びを深め、夜はキャンプファイアーを体験することができました。

～DAY2～

2日目は実技を中心に学びました。午前中はロープワーク、タープ設営、火起こしを行いました。設営はブルーシート、ロープ、ペグのみで設営に挑戦しました。午後はプログラム体験としてキャンプクラフトを行い、マイ箸を作りました。



～DAY3～

これまでの学びをまとめ、試験に挑戦！見事、全員試験に合格しました！！おめでとうございます。

資格取得はスタートです。今回の学びを生かして、多くの人楽しくて学びのあるキャンプを提供してください。そして現場でたくさんの指導経験を積み、さらにスキルアップして次はキャンプディレクターに挑戦してください！お待ちしております。

コロナ禍における各団体の取り組み① NPO法人 自然教育促進会(小樽)

- ①各事業に合わせた新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインを作成して実施しました。
⇒子どもたちの体験活動の場を減らさず、より良い成長を促すために継続して事業を実施しました。
 - 定員(日帰り活動含)を50%程度、車両乗車定員も50%程度としました。
 - 状況により、活動日を延期しました。
 - 例年よりも賑やかなアクティビティを減らし、静かなアクティビティを多くしました。
 - ②集団よりも個を重視するようになりました。
⇒今までよりも「一人ひとりの理解」や「小規模グループでの過ごし方」を重視するようになりました。その子が何を考え、何を楽しんで、何に悩んでいるのかなど、個々をよく観察したり、向き合って話を聞いたりすることが改めてキャンプの中で大事なのだと実感しました。華やかな活動、インパクトのある活動も良いですが、一人ひとりに寄り添う活動を重視していくことがこれからは大事だと思います。
 - ③市内小学校の要望で川での環境活動を実施しました。
⇒新型コロナウイルスの予防に配慮しながら、自分たちの地域のことを学ぶ活動を実施しました。
 - 対象：小学校3年生55名
 - 事前学習授業(室内)
勝納川の概要、歴史、名前の由来、落差工の設置理由、地域での使われ方(大量の鯉のぼりの設置他)、川の散策路や川の中にゴミの現場
 - 環境学習授業(野外)@勝納川
川の散策路と川の中の清掃活動。生き物探し。ふりかえり。
捕まえた生き物：水生昆虫数種類、ウグイ35匹、ウキゴリ123匹、フクドジョウ145匹、ヤマメ62匹、ハナカジカ3匹、モクズガニ22匹、スジエビ32匹
- 【体験した児童の声】
- 大量のゴミが集まってびっくり！通学路として川の上を通っていたけど、こんなに川が汚れていたなんて、わからなかった。こんなに生き物がいることに感動しました。川にも生き物がいるんだとわかりました。生き物がちゃんと住めるようにするためにも、気づいたらゴミを拾うようにします。この川、秋になったら、鮭が登っているのを見たことがあります。鮭以外にも生き物がいっぱいいるんだとわかりました。
- ④一部の事業でオンライン授業を実施
⇒事前に会員にアンケート調査を行い、一部の事業でオンライン授業を実施しました。また、スタッフの打ち合わせ等を一部オンラインで実施しました。



札幌市定山溪自然の村は、市民の健康増進及び交流の促進を図ることを目的として札幌市が設置した野外教育施設です。積雪寒冷地では珍しく、テントサイトを含め通年オープンしているキャンプ場となっております。昨年から続くコロナ禍ではありますが、施設の利用数制限や事業内容の大幅な見直しを行いながら「自然との関わりが人にとって必ずプラスに作用する」ことをキーワードに運営を進めてきました。

当施設は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、昨年4月初旬から5月末までの約2か月間において臨時休業の措置を取りました。その間、職

員同士で感染症の拡大防止策について検討し、「新北海道スタイル」安心宣言を基にした対策を講じることとしました。具体策としては、施設の利用数を約半数に制限、受付番号札の配付によるチェックイン時の混雑緩和対策、受付窓口への飛沫感染予防シートの設置、直接肌に触れる毛布や枕などレンタル物品の貸し出し制限などの感染対策を踏まえて6月より施設の再開を行いました。利用者からは「安心して利用することができた」など好評の声を頂いております。

事業及び各種プログラムの実施にあたり、家族及び申込グループ単位とした活動を基本とし、他者・団体との接触を減少させる取り組みを実施しました。また、野外活動の機会確保のため、一事業あたりの参加定員を減らしながらも、回数を増やすことでこれまでどおりの参加人数を確保する工夫を行いました。食事による参加者同士の感染を防ぐため食事提供を伴う事業については中止せざるを得ないものもありましたが、どの事業についても定員を超える申し込みがあり、あらためて自然体験活動の価値・ニーズの高さを認識するとともに、これら各種プログラムの実施方法や施設運営の見直しを行ったことで、「自然体験や施設運営の新しい可能性」について考えを深めるきっかけにもなりました。

『間接体験』や『疑似体験』が圧倒的に多くなっている現在の生活様式の中で、2020年の流行語大賞では「ソロキャンプ」がトップ10入りするなど、世間では空前のキャンプブームとなっています。当施設は土曜日や夏休み期間などの利用については以前から満室が続いていましたが、今年度については、コロナ禍においても一部平日の利用者数が伸びている状況があり、施設の利用数を制限したこともありますがキャンセル待ちが増加している状況です。

野外活動体験の経験差がある中で、安心・安全な活動が行える「困ったときに助けを呼べるキャンプ場」である重要性和「四季折々の多様な自然」と「人」が関わるができる『直接体験』を提供する場としての当施設に対する利用者のニーズや期待の高まりをひしひしと感じています。すべての利用者が安心・安全な活動を行うことができるように、自然体験活動の新たなプログラム提供や提案を進めていきます。



札幌市定山溪自然の村HP
<https://www.sj-naturevillage.jp/>





コロナ禍を経て生まれた新たな価値観『納得できる感染対策ができていくか』が消費者の行動基準に加わったことは言うまでもありません。体験活動を行う際も例外ではありません。野外炊事や食事、複数でのテント泊など、キャンプの醍醐味と言われるイベントの多くが感染リスクのあるプログラムです。今までの活動が今まで通りではいけない時代が到来しました。しかし、コロナ禍であろうと子どもたちは成長します。体験活動は絶やしてはいけない、そんな思いからコロナ禍で実施した事業を一部ご紹介させていただきます。

【防災減災教育もしとき教室】

災害時の自助・共助に関わる8つのプログラムから構成された体験教育です。年に数回実施しています。参加者自身が自ら考え答えを導くことに重点を置いて展開されているのが特徴です。

主な感染予防対策

- 募集：募集人数を12名（少人数）、現地集合解散としました。
- 事業前：活動7日前から参加者及び同居家族に発熱や体調不良がみられる場合は参加を見合わせてもらう、接触確認アプリのインストールのお願いなどを行いました。
- 事業：新北海道スタイルの遵守。食事は間隔を空け非常食体験（調理提供無し）、就寝時は8月はソロビバーク、10月以降は換気、加湿、マスク着用、間隔を空けるなどして実施しました。低学年対象の活動は生活面のサポートが必要になり、スタッフとの接触が多く予想されることから活動は休止し、高学年のみの活動へ変更しました。また試験的にオンライン体験を実施しました。事前に応急手当の体験キットなどを送り、自宅からオンラインで参加していただきました。

【リスクマネジメント研修会】

安全への感覚を研ぎ澄まし、危険に対する基礎的な考え方を座学と実技を通して学ぶ指導者向けの研修会です。依頼者に合わせた研修プランを提供しており、研修会終了後にはNPO法人自然体験活動推進協議会（CONE）が認定する「リスクマネジメント講習会」修了証が発行されます。

- 募集：団体ごとに研修を実施し、1度の研修会で参加者が20名前後になるよう調整
- 事業前：もしとき教室と同様（上述）
- 事業：新北海道スタイルの遵守、常時換気、アクリルパネルの使用。8月に札幌市認可保育園にて実施しました。リスクマネジメント研修会は現在も随時募集しています、3時間の基礎講習コースはオンライン開催もできるよう準備を進めております。ご興味のある方はお問合せください。



メンバー募集！

北海道キャンプ協会には、次世代若手指導者団体である「えぞっぷ」という組織があります。「えぞっぷ」では様々な活動を計画し、北海道におけるキャンプ活動の推進を図っています。若手ならではのエネルギーな企画や新たな視点での活動が実施されています。ぜひ皆さんも「えぞっぷ」に入り一緒に活動しませんか？興味のある方は北海道キャンプ協会事務局までご一報下さい。

【活動実績】

北海道キャンプフェスタ、指導者交流会、日本キャンプミーティングでの発表、活動報告会など

北海道キャンプ協会

〒005-0862

北海道札幌市南区滝野106番地

NPO法人ネイチャープログラムデザイン内

TEL&FAX 011-596-9170

メール hokkaido@camping.or.jp

URL <https://www.hokkaidocamp.com/wp/>

